Ⅰ北九州市にしごとをつくり、安心して働けるようにする

③24時間利用可能な北九州空港の強みを活かした大規模な集貨･集客

⇒国内・国際線の路線誘致を図り、空港利用者数や貨物取扱量の飛躍的増大を目指すための取組

事業名等	概要	ＫＰＩ（平成３１年度） ※ＫＰＩ＝重要業績評価指標	ＫＰＩ実績	
北九州空港の利用促進	2020 年の東京オリンピックや訪日外客 4000 万人を目標とした国の観光政策によるインバウンドの増大、東九州自動車道の全線開通等を背景に、空港利用者数の飛躍的増大を図る。また、福岡空港と北九州空港の役割分担と相互補完を進め、福岡空港の混雑空港指定を背景に、福岡空港の逼迫する需要を北九州空港に取り込むことにより、北部九州のみならず九州全体の交流を支える。さらに東九州軸地域の貨物需要を取り込み北九州空港の貨物拠点化を推進する。 ・24 時間空港の特長を活かした LCC など深夜早朝便の誘致 ・24 時間空港の特長を活かした早朝・深夜帯等における空港使用料等の軽減方策拡大 ・東九州自動車道や世界遺産を活用した北九州空港利用観光ルートの開発 ・24 時間空港の特長を活かした貨物便誘致による航空貨物の集積 ・東九州軸地域の集貨促進	空港利用者数： 126 万人（H26 年度）⇒ 200 万人（H32 年度）	H27	132 万人
			H28	140 万人
		航空貨物取扱量： 15 千ｔ（H26 年度）⇒ 30 千ｔ（H32 年度）	H27	7 千ｔ
			H28	8 千ｔ

⇒空港利便性向上のためのアクセスの強化（エアポートバスなど）

事業名等	概要	ＫＰＩ（平成３１年度） ※ＫＰＩ＝重要業績評価指標	ＫＰＩ実績	
北九州空港のアクセス強化	北九州空港利用者の利便性向上のため、市内のみならず福岡都市圏や東九州軸を含む広域エリアとのアクセスを強化する。 ・エアポートバス（小倉線）の定時運行及び深夜・早朝便に対応した運行 ・福岡県との連携による福岡都市圏とのリムジンバスの運行 ・東九州軸地域を含む広域アクセスの強化	空港利用者数： 126 万人（H26 年度）⇒ 200 万人（H32 年度）	H27	132 万人
			H28	140 万人

⇒今後の旅客・貨物の需要増大に対応するための空港の施設等の拡張・再整備

事業名等	概要	ＫＰＩ（平成３１年度） ※ＫＰＩ＝重要業績評価指標	ＫＰＩ実績	
北九州空港の機能拡充	北九州空港の今後の旅客・貨物の需要増大に対応するため、空港機能の強化・拡充を図る。 ・大型貨物機による安定した離着陸を確保するため滑走路 3,000ｍへ延伸 ・LCC や貨物便の就航に対応するためターミナル地域の整備 ・24 時間スムーズな出入国を可能とするため、CIQ 体制の強化及び施設の整備	空港利用者数： 126 万人（H26 年度）⇒ 200 万人（H32 年度）	H27	132 万人
			H28	140 万人
		航空貨物取扱量： 15 千ｔ（H26 年度）⇒ 30 千ｔ（H32 年度）	H27	7 千ｔ
			H28	8 千ｔ

⑤ロボット・自動車産業などリーディング産業の振興を加速化

⇒今後の成長が期待される風力発電産業などのエネルギー産業拠点の形成

事業名等	概要	ＫＰＩ（平成３１年度） ※ＫＰＩ＝重要業績評価指標	ＫＰＩ実績	
風力発電関連産業の総合拠点の形成	産業の裾野が広く、雇用創出効果の高い風力発電産業をターゲットに、あらゆる機能が集積した風力発電関連産業の総合拠点の形成を目指す。 ・風力発電関連産業の集積 ・洋上風車積出し拠点の形成	新規雇用 110 人	H27	0 人
			H28	累計 1 人
バイオマス（※）関連産業の総合拠点の形成	日本最大級のバイオマス燃料集配基地と、近隣に集積するバイオマス発電所との相乗効果により、低炭素かつ安価なエネルギー供給拠点を構築する。 ・バイオマス燃料集配基地の整備 ・バイオマス発電団地の形成	新規雇用 150 人	H27	0 人
			H28	累計 10 人

※　バイオマス：生物資源（bio）の量（mass）を表す概念で、一般的には「再生可能な、生物由来の有機性資源で化石資源を除いたもの。」

⇒地域経済の発展に寄与する、「更なる物流拠点化」の推進

事業名等	概要	ＫＰＩ（平成３１年度） ※ＫＰＩ＝重要業績評価指標	ＫＰＩ実績	
更なる物流拠点化	東九州自動車道の開通や長距離フェリーの大型化など、本市の物流拠点都市としての優位性が向上することを好機ととらえ、より広域からの集貨（物流振興）と企業立地による創貨（産業振興）に取り組み、「更なる物流拠点化」を推進する。	海上出入貨物取扱量： 100,098 千トン（H26 年）⇒ 109,000 千トン（H31 年）	H27	99,331 千トン
			H28	98,527 千トン
		コンテナ貨物取扱量： 485 千 TEU（H26 年）⇒ 646 千 TEU（H31 年）	H27	499 千 TEU
			H28	517 千 TEU

Ⅱ北九州市への新しいひとの流れをつくる

⑥外国人観光客倍増など市外からの観光客増に向けた取組

⇒国内外クルーズ客船の誘致活動及び、寄港時の賑わい創出

事業名等	概要	ＫＰＩ（平成３１年度）	ＫＰＩ実績	
クルーズ船の誘致	受入態勢の強化を図るとともに、国内外のコンベンションへの出展やキーパーソンの招へい、代理店や船社への情報提供によるクルーズ船寄港の促進及び客船寄港時におけるおもてなしイベント等を展開する。あわせて、中国人観光客等を対象とした周遊ルートの開発を行う。	年間寄港回数： 1～5 回（H22～26 年度）⇒ 20 回（H32 年度）	H27	4 回
			H28	12 回

Ⅳ時代に合った魅力的な都市をつくる

④国内外から人を惹きつける海峡都市圏の形成（関門連携）

⇒「かんもん海峡都市」観光まちびらき・形成推進事業の実施による関門ブランドの構築、関門地域の魅力向上

事業名等	概要	ＫＰＩ（平成３１年度） ※ＫＰＩ＝重要業績評価指標	ＫＰＩ実績	
クルーズ船の誘致（**地方創生推進**）【再掲】	受入態勢の強化を図るとともに、国内外のコンベンションへの出展やキーパーソンの招へい、代理店や船社への情報提供によるクルーズ船寄港の促進及び客船寄港時におけるおもてなしイベント等を展開する。あわせて、中国人観光客等を対象とした周遊ルートの開発を行う。	年間寄港回数： 1～5 回（H22～26 年度）⇒ 20 回（H32 年度）	H27	4 回
			H28	12 回

⇒北九州都市圏と下関都市圏の連携強化（都市圏を結ぶ交通環境の強化、門司港地区やめかり地区の魅力強化、唐戸地区との周遊ルート強化等）

事業名等	概要	ＫＰＩ（平成３１年度） ※ＫＰＩ＝重要業績評価指標	ＫＰＩ実績	
新浜地区の賑わい創出	新浜地区の土地利用のあり方や施設計画、土地利用規制の見直しなどについて検討し、臨海部再編に寄与する上屋跡地の有効活用を図り、賑わいを創出する。	上屋跡地への観光客： 5,000 人（H31 年度）	H27	1,300 人 （暫定利用）
			H28	2,000 人 （暫定利用）

⑤福岡県北東部地域市町との連携のさらなる強化

⇒連携中枢都市圏「北九州都市圏域」による『きりん』の輝き推進事業の実施による「北九州都市圏域」を形成する近隣 16 市町と連携、圏域の包括的な魅力向上

事業名等	概要	ＫＰＩ（平成３１年度） ※ＫＰＩ＝重要業績評価指標	ＫＰＩ実績	
北九州空港を利用した「きりん」エリアの魅力発信事業（**地方創生推進**）	北九州空港を基点とした北九州都市圏域の魅力を発信するため、周遊ルートの開発、プロモーション、ファムツアー（旅行業界・メディア業界等の関係者を対象にした現地体験ツアー）を実施する。	北九州年圏域内への観光客数：3,658 万人(H31 年度)	H27	－
			H28	調査中
		北九州都市圏域内の宿泊者数：178.6 万人(H31 年度)	H27	－
			H28	調査中

⑥人口減少等を踏まえた都市のリノベーションの推進

⇒都心の遊休資産をリノベーションなどの手法を活用した有効利用

事業名等	概要	ＫＰＩ（平成３１年度） ※ＫＰＩ＝重要業績評価指標	ＫＰＩ実績	
小倉駅新幹線口魅力創出事業	都心における唯一のウォーターフロントである小倉駅新幹線口地区において、緑地の整備を行うとともに、民間活力を導入して、賑わい施設や魅力的な居住空間の整備を行うことで、当該地区の賑わいを創出する。	港湾緑地の訪問者： 20,000 人(H31 年度)	H27	0 人
			H28	9,000 人 （想定）